

ハロウィンとコスプレ

佐々木 隆

プロローグ

ハロウィンが日本に定着しただけでなく、日本独自の変容を見せた最大の要因は「コスプレ」ではないだろうか。平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』（二〇一八）でも「日本でハロウィンをここまで広めたのは“コスプレ文化”にあると言える」（二）と述べている。本稿ではハロウィンと日本のコスプレとの関係について論じていきたい。

一 ハロウィンと仮装

ハロウィンではお化けの格好するなどのいわゆる仮装が行われる。ハロウィンはもともと古代ケ

ルト人のサムヘインの祭が起源とされる。タツド・トレジャ／北村弘文訳『アメリカ風俗・慣習・伝統事典』（一九九二）では「死者の魂を象徴する仮面と時代衣裳を着けた村人たちが郊外までパレードして亡霊たちを外へ連れ出す」（三）ことがこの習慣の源であると述べている。サイモン・ジームズ／吉岡晶子・渡辺充子訳／井村君江監訳『図説ケルト』（二〇〇〇）ではその起源について次のように述べている。

生者の世界と神や死者の世界との境界がいままで、サウインの大祭のときにはその境界がすっかり消えてしまったようだ。（これは夏の終わり、冬の始まりを示す十一月一日におこなわれる祭り、祭りのあいだこの世の正規の法が一時的に破られて、混沌と化するのである。この名残りがハロウィンとして今日に伝えられてい

る。) (三)

ハロウィンとは日本では、死者の魂が現世に戻ってくるお盆であり、新しい年を迎えるひとつの区切りとして考えれば、正月にも相当する。また、収穫に関する感謝という意味では勤労感謝の日にも相当することになる。勤労感謝の日はもともとは宮中で収穫に感謝して行われた新嘗祭であった。死者と生者の境界が消えれば、生者はあやうい状態になることから、生者は死者の仮装をするこゝとでその難を逃れていたということがその起源であろう。

二 正装・制服、仮装&コスプレ

仮装やコスプレを考える前に服装全般から考えるとすれば、正装は一般庶民にとっては普段な

なか着る機会の少ない服装である。現在では儀式や式典ではこれに準じて、式典にふさわしい服装をするように教育される。家庭でも学校でも同様だ。子供にとって特別なのは

まず七五三だろう。その後、幼稚園に入園すれば、入園式・卒園式をはじめ、制服が存在することが多い。運動着や作業をする時にはスモック(四)を着用することが多いようだ。日本人は



幼い頃よりTOPによる服装を変えろという行為を体験している。式典用の服装に始まり、やがて学校を通してほとんどの日本人が制服として経験するようになるのだ。また活動内容により服装が変わるといふこともしばしばある。祭りの時には法被を着用するのもその一例だ。その背景にはいつもの自分ではない姿になる(今日だけは特別の

自分になる」といった一種の変身願望でもある。

また、気分を一新する、気を引き締める、一体感を持つなどの効果もある。外国人から見れば日本の学校は特別に見えるかもしれない。服装だけに注目してみても、制服で通学し、体育の授業では体操着に着替え、給食などがある場合には、配膳係はエプロンなどを着用したりする。制服も夏服や冬服がある。体操服や上履きが学年ごとに異なることもある。こうした制服は中学校・高等学校でもにも使用されている。色彩感覚やいわゆるオシヤレに最も敏感である十代でこうした制服生活を経験することとなる。就職活動では制服ではないが、リクルートスーツといったような独特な習慣さえある。社会人になっても、会社や職場で制服を着用するものも少なくない。三田村蒔子『コスプレーなぞ、日本人は制服がすきなのか』（二〇〇八）の中で、キャンビンアテンダントの制服を

例にして次のように述べている。

まず、制服にはさまざまな効果——制服力があることを知っておきたい。

- 1 作業性をあげる
- 2 識別性を持たせる
- 3 PR効果を促進する
- 4 ブランド力を向上させる
- 5 プライドを持たせる
- 6 モチベーションを上げる
- 7 連帯感・統一感をもたせる（五）

学校であれ企業であれ、制服の持つ意味はあまりかわらないだろう。制服があることで憧れを持つ職業としては、フライトアテンダント、警察官、消防官、自衛官、看護士はその代表的なものだ。

式典や冠婚葬祭ではオフィシャルな場として式

服や礼服などを着用することになる。これにより、その場が神聖化されるのである。

こうした背景を踏まえて、仮装やコスプレについて考えていく必要がある。

まず「仮装」とは何かを確認しておこう。新村出編『広辞苑』（二〇一八）では次のように定義している。

- ① 仮に他のものの姿を装うこと。
- ② 相手をあざむくため、いつわりよそおうこと。
と。 (六)

また、最近よく使用される言葉に「コスプレ」があるが、これについても同様に『広辞苑』の定義を見ておきたい。

(コスチューム・プレーの略) 漫画・アニメ・

ゲームなどの登場人物の扮装をして楽しむこと。
(七)

「仮装」と「コスプレ」とでは、共通する部分があると同時に「コスプレ」の場合にははっきりと「漫画・アニメ・ゲームなどの登場人物」と特化されている点で違いもある。「仮装」と「コスプレ」の違いについて、「コスプレ」の特徴については、筆者が他で論じているためここでは詳細は割愛する。(八) 比較的若い世代では意識せずに、「コスプレ」を使用している場合もある。ここで重要なのは「他のものの姿を装うこと」である。ここでもうひとつ重要なことがある。日本人がTPOに敏感であるということだ。行事や活動によって衣裳、すなわち服装を変えていることだ。平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』(二〇一八)でも次のような指摘がある。

そもそも日本人はコスプレが大好きなのだ。

七五三や誕生日に着かざり、写真館で家族写真を撮る。卒業式や成人式には着物姿で闊歩する。結婚式の晴れ姿もまた、コスプレに外ならない。日本にはもともとコスプレの下地があり、ハロウィンによって、コスプレ魂が解放されたともいえる。(九)

これまでの服装を変えろというのは社会のシステムや行事に伴い習慣化してことが大きな要因である。ハロウィンでコスプレが定着してきたことは、ハロウィン自体が認知され、行事化されてきた一端を見ることができよう。そのコスプレの中で本来ハロウィンで行われる仮装ではなく、仮装の多様化の結果、仮装という言葉よりもコスプレという表現の方がすっきりする姿に変容したのである。

三 コスプレはいつから始まったのか

今やコスプレは日本のハロウィンに欠かせないものだ。このコスプレは一体いつから始まったのか。これはおそらくアメリカであると思われるが、何をもって「コスプレ」とするかで起源は異なるだろう。

Wins First Prize As "Skygack"



Times readers don't need to ask who the dickens this is. Sure, it's Skygack from Mars, one of the Times' humorous characters. August Olson of Monroe, Wash., contributed the picture. He "made up" as Skygack and "copped" the first prize at a masked ball at Monroe.

右記のものは『タコマタイムズ』（一九一二年五月二十四日）に掲載された記事である。(十) 仮面舞踏会でSFの登場人物に仮装し、そのまま優勝したようである。また、一九三九年に開催された

第一回ワールドコン (the World Science Fiction Convention) でフォーレスト・J・アッカーマンがSFのキャラクターに仮装したものが最初であるとの指摘もある。(十)フォーレスト・J・アッカーマン (Forrest J. Ackerman, 1916-200) は、アメリカのSFやホラー関連の編集者、版權代理人、作家として知られているばかりではなく、彼の住居はSFやホラーグッズを収集した「アッカーマンシヨーン」と呼ばれる個人ミュージアムとなっていたのである。ネット上の記事「Firsts: The first cosplay took place at the first-evercon... in 1939」では次のように掲載されている。

When cosplayers dress up as their favorite character, or even their interpretation of a favorite character, they're not just expressing their fandom. They're also carrying on a

tradition that began with ... well, the first iterations of fan conventions.

The first recorded cosplay took place at one of the world's first science fiction conventions, Worldcon I, in 1939. Prior to this, there had been only four other gatherings of science fiction fans. The first Worldcon was a massive gathering ... of 200 people.



(十一)

その後アメリカでは『スタートレック』(一九六

六年よりTV放映)などにより、いわゆるコスプレが定着し始めていく流れが出来た。つまりコスプレはSFと共に始まったことになる。広い意味で言えば、SFのファンダムから始まったと言つてよいだろう。

アメリカのワールドコンの流れを組む日本SF大会は一九六二年五月二十七日に目黒公会堂清水記念館で開催され、以降毎年開催されている。気になる集まりとしては日本漫画大会が一九七二年七月に四谷公会堂で開催、一九七五年大会の折り、参加を断われたグループが中心となり、新しくコミックマーケットが一九七五年十二月二十日に日本消防会館の会議室で開催された経緯がある。(十三) マンガはすでにSFに限られたものではなく、少女マンガのファンなどもいたことから、マンガの多様化が進んだ結果ともいえるだろう。田中東子「コスプレという文化―消費でもあり生

産でもあり」(二〇〇九)では次のような指摘がある。

もともと「コスチューム・プレイ」は、アメリカのSF『スタートレック』のファンや『スターウォーズ』のファンが、登場するキャラクターの扮装を始めたのが始まりだと言われている。それが一九八〇年代に日本SF大会の会場などに伝播する。一九九〇年代前半までの時期には、同人誌即売会などでアニメや漫画のキャラクターに扮する人々が目立つようになる。(十四)

さらに、平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』(二〇一八)では日本国内の状況を次のように述べている。

かつて、コスプレは一部のオタクたちが築き

上げた”オタク文化”だった。コミックマーケット（コミケ）などの同人即売会で、参加者が人気マンガやアニメのキャラクターに扮したのがコスプレイヤーの始まりだ。コスプレは、同じ価値観を共有することができるコミュニケーションツールだった。

平成7年に始まったアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」が世界的なブームとなり、「エヴァ」関連のコスプレが急増。^{（十五）}

日米のコスプレを辿っていくと、まさにオタクに行き着くこととなった。

エピローグ

コスプレの源泉を辿ると確かにオタク文化に見ることができる。筆者は「オタク前史」として、

戦前から培われていた鉄道研究会の存在、戦後急速に広まったSFファンダムを取り上げた。^{（十六）}

手塚治虫や石森章太郎に代表される日本のマンガやアニメがSF要素を含んでいることから、オタクはこうした影響を強く受けている。SF、マンガ、アニメの心を奪われたオタクが集まれば、そこからキャラクターの恰好をしてみたいという願望は不思議ではない。同人誌の即売会からスタートしたコミックマーケットに、コスプレイヤーが登場したことで、コスプレがひとつの分野として認知されるようになったのだ。

注

- （一）平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』（新紀元社、二〇一八年十月）、五十頁。
- （二）タッド・トレジャ／北村弘文訳『アメリカ

風俗・慣習・伝統事典』(北星堂書店、一九九二年三月)、二七四頁。

(三) サイモン・ジェームズ／吉岡晶子・渡辺充子訳／井村君江監訳『図説ケルト』(東京書籍、二〇〇〇年六月)、一五二頁。

(四) 「スモック」の写真 (http://www.mano-os.com/img/product06/img05_big.jpg) (二〇一〇年一月八日アクセス)

(五) 三田村藤子『コスプレなぜ、日本人は、制服がすきなのか』(祥伝社、二〇〇八年十月)、十二〜十三頁。

(六) 新村出編『広辞苑』(岩波書店、二〇一八年一月)、五五九頁。

(七) 同書、一〇六二頁。

(八) 佐々木隆「ポップカルチャーとしてのハロウィン」(『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第十三輯、武蔵野学院大学日本総合研

究所、二〇一六年三月)、三頁。／佐々木隆『ポップカルチャー論』(多生堂、二〇一六年十二月)、二九〇〜二九一頁。

(九) 平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』、五十頁。

(十) *The Tacoma Times*. Friday May 24, 1912. (<https://chroniclingamerica.loc.gov/lccn/sn88085187/1912-05-24/ed-1/seq-1/>) (access on 20200109)

(十一) 「真偽『コスプレは日本発祥の文化』」(<https://alis.to/tatsumi30186inui/articles/a/EONR9mWv7DN>)(access on 20200109)

(十二) 「Firsts: The first cosplay took place at the first-evercon... in 1939」

(<https://www.syfy.com/syfywire/firsts-the-first-cosplay-took-place-at-the-first-ever-con-in-1939>)(access on 20200110)

(十三) 吉本たいまつ『おたくの起源』(NTT出版、二〇〇九年二月)、七十五〜七十六頁。

(十四) 田中東子「コスプレという文化―消費でもあり生産でもあり」(成実弘至編『コスプレする社会』(せりか書房、二〇〇九年六月)、三十七頁。

(十五) 平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』、五十頁。

(十六) 佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』多生堂、二〇一九年十月)、一〜七頁/佐々木隆『ポップカルチャーとオタクの微妙な関係 追加増補版』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、二〇二〇年四月)、三五五〜三六一頁。